

(公財)福島県文化振興財団助成事業
“音楽都市こおりやま”市民音楽祭主催行事
郡山市民文化センター市民コンサートホール

安積合唱協会 & 京都バッハ合唱団

ASAKA Chorverein und Kyoto Bach Chor

ジョイントコンサート

Gemeinsames Konzert

安積合唱協会 第22回定期演奏会

22. Abonnementkonzert

本日はお忙しい中、ご来場いただき誠にありがとうございます。

東日本大震災から3年半余りが過ぎる中、多くの皆様のご支援により本日の演奏会を開催できますことはこの上ない喜びであり、ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

当協会は、1992年の結成以来、中世・ルネッサンス、バロック時代の甘く美しい教会音楽をはじめ、古今東西の名曲を中心に演奏活動を続け、これまで、21回にわたる定期演奏会のほか、国内の合唱コンクールやアンサンブルコンテスト、さらにはドイツ、オーストリア、フランスでの海外公演など、幅広い演奏活動を展開してまいりました。

そして、東日本大震災以降は、ふるさと福島の元気を発信しようとの思いから、県内外の各種演奏会等にも参加し、特に、福島をはじめとする被災地の震災復興を願い京都府長岡京市で開催された復興祈念コーラスコンサート Harmony for JAPAN に2013年、2014年と参加し、京都バツハ合唱団（主宰 本山秀毅先生）の皆様との共演を通して友好の絆と交流を深めてきました。

そのご縁もあり、これまでの交流や支援に対する感謝の思い、さらには東日本大震災の鎮魂の祈りと復興への希望を歌声に乗せて発信しようとの思いから、京都バツハ合唱団の皆様ならびに本山秀毅先生をお招きし、当協会の第22回定期演奏会を兼ねて、両合唱団によるジョイントコンサートを開催する運びとなりました。このようなジョイントコンサートを開催できるのは、京都バツハ合唱団の皆様や本山秀毅先生のご理解とご協力はもちろんのこと、これまで当協会を支えてくださいます多くの方々の温かいご支援の賜であり、あらためて心より深く感謝申し上げます。

本日は、第1ステージおよび第2ステージでは、安積合唱協会、京都バツハ合唱団による単独演奏を披露するほか、第3、第4ステージでは、両合唱団の合同演奏により、未来へ向かう希望や震災への祈りを歌声に乗せてお届けいたします。

ふるさと福島の再生に向けて、東日本大震災等からの復旧・復興の取り組みが途上にある中、私たち自身が自分達の手でこれまで以上に元気に演奏活動を展開し、絆で結ばれた皆様とともに美しいハーモニーを創り上げ、一人でも多くの方々に届けていくことが、福島の復興の証になるものと信じています。

これからも、応援して下さる多くの皆様との絆を大切にしながら、これまで築き上げてきた演奏スタイルを基本に、優れた音律（チューニング）と各声部の完璧な調整（ブレンド）を備えたオンリーワン合唱団を目指して、また新しい歴史をしっかりと刻んでまいりたいと思います。

最後に、本日のジョイントコンサートの開催にあたり、ご来場いただきました皆様、協賛団体、賛助会員はじめ関係者の皆様、そして共催を快くお引き受けいただいた京都バツハ合唱団ならびに本山秀毅先生に重ねて御礼申し上げます、あいさつとさせていただきます。



安積合唱協会 単独ステージ

第1
ステージ

Nachtlied 夜の歌 (Max Reger 作曲)
 Laudate Dominum 主をほめ讃えよ (Rheinberger 作曲)
 Missa Papae Marcelli 教皇マルチェルスのみサ (Palestrina 作曲) より
 Credo 信仰宣言
 Agnus Dei 神の小羊

指揮: 宍戸 真市



京都バッハ合唱団 単独ステージ

第2
ステージ

Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen Op.74-1
 なにゆえ悩むものに光をたまわり モテット作品74-1 (Brahms 作曲)
 Christus factus est キリストは我らのために (Bruckner 作曲)
 Os justi 正しい者の口は (Bruckner 作曲)
 O gloriosa Virginum おお、栄光に満てる聖母 (Penderecki 作曲)

指揮: 本山 秀毅



信長貴富作品 合同ステージ

第3
ステージ

くちびるに歌を ツェーザー・フライシュレン 詩 信長貴富 訳・作曲
 こころようたえ 一倉 宏 作詞 信長貴富 作曲
 リフレイン 覚 和歌子 作詞 信長貴富 作曲
 群青 福島県南相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生(構成・小田美樹)作詞
 小田美樹 作曲 信長貴富 編曲

指揮: 宍戸 真市
 ピアノ: 橋本 絵美



Pizzetti “Messa di Requiem” 合同ステージ

第4
ステージ

Requiem 永遠の安息を
 Dies Irae 怒りの日
 Sanctus 聖なるかな
 Agnus Dei 神の小羊
 Libera Me **リベラ・メ**

指揮: 本山 秀毅

日時 / 2015年 1月 12日(月・祝) 12:30開場 13:00開演

場所 / 郡山市民文化センター 大ホール

主催 / 安積合唱協会

共催 / 京都バッハ合唱団、郡山市、郡山市教育委員会、郡山市民文化センター
 (公益財団法人 郡山市文化・学び振興公社)

後援 / 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、NHK 福島放送局、
 福島テレビ、福島中央テレビ、テレビユー福島、福島放送、ラジオ福島、
 ふくしま FM、福島県合唱連盟、郡山市音楽連盟

レーガー「夜の歌」

夜の暗さ、闇の深さ。LED はおろか、電球・電灯すらなく、灯りと言えはろうそくランプという時代、人々はどんなに心細かったでしょう。

「昼間の疲れを癒す眠りの間に、心の中に潜む邪念が闇夜に乗じて力をふるうかもしれない…。どうか神様、お護りください…。」こんな内容の詩（ドイツ語）を書いたのが、16世紀の神学者、ヘルベルト（Petrus Herbert 1530頃-1571）です。この詩はほどなく曲がつけられ、讃美歌（コラール）となりました。後にバッハもこの歌のメロディーに和声付けを行い、四部合唱のコラールに仕立てました（BWV296）。また、日本の「讃美歌21」でも217番に「一日の仕事を終え」という題のもと、フレミングという19世紀の作曲家の手になる曲が収められています。

時代は降り、電灯が夜も明るく照らすようになった20世紀にも、この詩はレーガー（Max Reger 1873-1916）にインスピレーションを与えました。彼はメロディーも含めて、この詩に新しく曲をつけました。男声三部に分かれる混声五部合唱（無伴奏＝アカペラ）の編成をとったうえで、一般の讃美歌よりも多彩な和声付けを施し、重厚な響きと変化に富んだ展開を見せています。

それでもこの曲は、讃美歌らしい特徴を残しています。楽譜を見ると、上のソプラノから下のベースまで、縦にリズムがそろっています。いっせいに同じ歌詞が発音されるので、くつきりと耳に入ってきます。このような、讃美歌に典型的なスタイル（ホモフォニーといいます）のおかげで、詩の行末が規則正しく同じ発音になる、つまり脚韻を踏んでいるのがよく分かります（kommen/sollen/Frommen など）。レーガーは詩の持つリズムを尊重し活かしながら、音楽を創りだしていったといえるでしょう。

Nachtlied 夜の歌（歌詞はドイツ語）

Die Nacht ist kommen, Drin wir ruhen sollen; Gott walt's zu Frommen Nach sein'm Wohlgefallen,	夜が来た。 われらが安らぐ夜が。 神は信心深い者たちに 御心に適う者たちに そのように計らってくださいなのだ。
Daß wir uns legen In sein'm G'leit und Segen, Der Ruh' zu pflegen.	ゆえにわれら安んじて身を横たえ 御守りと御恵みのなか、 憩い休む。
Treib, Herr, von uns fern Die unreinen Geister, Halt die Nachtwach' gern, Sei selbst unser Schützherr!	遠く追い払いたまえ、主よ、 われらから邪念を。 夜の見張りをよく続けたまえ、 御みずから、 われらの守り主たらんことを！
Schirm beid, Leib und Seel' Unter deine Flügel, Send' uns dein' Engel.	身と心、ともに護りたまえ、 主の翼のもと。 主の御使いをわれらに送りたまえ。
Laß uns einschlafen Mit guten Gedanken Fröhlich aufwachen Und von dir nicht wanken,	われらを眠りにつかせたまえ、 良き想いをもって眠れるように。 喜ばしく目覚めさせたまえ。 主から離れることなきよう、 計らいたまえ。
Laß uns mit Züchten Unser Tun und Dichten Zu dein'm Preis richten.	われらを律し、 われらの行いと言葉を 主の賛美へと向かわせたまえ。

ラインベルガー「主をほめ讃えよ」

レーガーは、言葉（歌詞）に寄り添う音楽を創るために、ソプラノにメロディーを歌わせ、アルト以下にはハーモニーを担当させ、その結果リズムが縦に揃う、ホモフォニーの方法で「夜の歌」を作曲しました。

いっぽう、合唱（器楽もそうですが）にはポリフォニーという方法もあります。ラインベルガー（Joseph Gabriel Rheinberger 1839-1901）が作曲した「主をほめ讃えよ」がその一例です。ポリフォニーとは、それぞれのパートが次々にメロディーを歌っていく曲の進め方です。同時にいくつものメロディーが鳴り、その結果としてハーモニーが響きます。輪唱やカノン、フーガなどの種類があります。

「主をほめ讃えよ」は、女声・男声それぞれ三部ずつ、合計六部合唱の編成です。これだけのパートが朗々と歌っていても、しかも全体としてはよく響き合うように作曲するのは並大抵のことではありません。難しいパズルを解くような感覚かもしれません。

歌詞の意味は、「全能の神をほめ讃えよう」というシンプルなものです。女声三部がまず歌いだし、男声三部がそれに呼応して、2人の人物の掛け合いのように進みます。やがて登場人物がどんどん増えていき、あちこちから声が湧き上がり、重なり合って、ついには地上全体が賛美に包まれるかのような響きが生まれます。

こういった、大きな広がり、うねりのようなものを表現するために、ポリフォニーの技法が使われたのでしょうか。ラインベルガーはこう発言しています：「音楽は言葉の上にある。言葉ではもはや満たせない場所から、音楽が始まる」。歌詞の意味の背後にスケールの大きさを見出し、それを音楽で引きだしたのが「主をほめ讃えよ」だといえるでしょう。

もちろん、これまでの説明は、ラインベルガーがポリフォニー専門、レーガーがホモフォニー専門、ということではありません。2人とも、歌詞や状況に応じて、両方をうまく使い分けてたくさんの音楽を書いています。

なお、2人とも、後期ロマン派の時代区分に属し、ミュンヘンなどドイツ南部・東部で主に活躍し、合唱やパイプオルガンの分野で優れた作品を残したという点で共通していることを付け加えます。また、レーガーは父親ほど年齢の離れたラインベルガーをたいへん尊敬していたということです。

〔歌詞はラテン語〕

Laudate Dominum, quia benignus est: psallite nomini ejus. quoniam suavis est.	主をほめ讃えよ、 なぜなら主は慈愛深い方であるから。 主の御名を歌い、奏で祀（まつ）れ。 なぜなら主は優しい方であるから。 （詩編135-3）
Omnia quaecunq̄ voluit, fecit in coelo, et in terra.	主はお望みになることをすべて なされる、 天においても、地においても。 （詩編135-5）
Laudate Dominum: psallite nomini ejus. quoniam suavis est: Laudate Dominum.	主をほめ讃えよ、 主の御名を歌い、奏で祀（まつ）れ。 なぜなら主は優しい方であるから。 主をほめ讃えよ。

パレストリーナ 「教皇マルチェルスのみサ」より

パレストリーナ (Giovanni Pierluigi da Palestrina 1525頃-94) はローマで活躍した作曲家です(「夜の歌」を作詞したヘルベルトと同世代ですね)。

ルネサンス期という、無伴奏の合唱が音楽の主流だった時代の最後を飾る代表的な作曲家です。

この時代は、さきほど説明したうちの、ポリフォニーによる作曲法が全盛でした。作曲家たちは競って、その技を磨きあげました。たとえば、より精密に、緻密に音を組み立てていくという技。あるいはまた、アイデア勝負というのでしょうか、元からあった歌を素材にして、別の新しい曲を作るといった技。

ところがここで困った問題が出てきました。歌詞がよく聴き取れない。作曲家は音の遊びにふけり、歌詞を伝えるという肝心な使命を忘れていた——こんな批判の声に直面したのが、パレストリーナたちの世代でした。

そしてついには教皇(ローマ法王=ローマ・カトリック教会における最高の指導者)マルチェルス2世が、就位早々、パレストリーナもメンバーとして歌っていた聖歌隊の歌を聴いて、「礼拝の内容に応じて声を使うべきであり、さらに、聴いてよく解るように音楽が作られるべきだ」と諭しました。1555年4月12日、キリストの受難を記念する聖金曜日のことでした。教皇はその後、5月1日に亡くなりました。在位期間わずか3週間でした。

パレストリーナには教皇の言葉が自身に向けられた遺言あるいは宿題のように感じられたのかもしれませんが。教皇没後7年にあたる1562年に作曲されたと推定される「教皇マルチェルスのみサ」は、教皇からの宿題に対する模範解答の趣があります(本日は抜粋で——昨年のコンサートで歌わなかった部分を——歌います)。

声部数は6つ。壮麗で量感豊かな音の響きが楽しめます。

まず **Credo** (クレド=信仰宣言; 言葉が特に大切なところ) では、ホモフォニーの要素を強めて、歌詞がはっきりと聴き取れるようにしています。歌詞の分量も多く、どんどん進めるのが必要という事情もありました。

反面、歌詞の量が少ない **Agnus Dei** (アニユス・デイ=神の子羊) では、歌詞を犠牲にすることなく、それぞれのパートが歌いあげていくポリフォニーの技が活かされ、音の綾が織りなされていきます。

特に圧巻なのが、後半、声部がさらに増えて7声となるところです。ここでは、第1バスが冒頭から「ソーソ↑ド↓シ↓ラ↓ソー」と歌うと、第2アルトが3小節後に5度上、つまり「レーレ↑ソ↓ファ↓ミ↓レー」と歌い、以下第1バスのメロディーをずっと追いかけていきます。さらに驚くことに、第2アルトから遅れること3小節、今度は第2ソプラノがさらに5度上「ラーラ↑レ↓ド↓シ↓ラー」と歌い始め、やはり第2アルトを追いかけていきます。

何気なく聴いていると、ただ美しく流れる音楽があるだけのようにみえますが、実は非常に厳格な規則(カノン)に律せられ、秩序立てられて進行しているのです。

このような仕掛けは、パレストリーナの別のみサ曲にもしばしば出てきます。目には見えない、あるいは見えにくい、が、神による秩序は確かにある——こんなことを彼は音楽を通して言いたかったのかもしれませんが。

(歌詞はラテン語)

Credo in unum Deum.

私は信じる、唯一の神を。(先唱=元来、司祭によってとなえられる部分)

Patrem omnipotentem,

全能の父、

factorem coeli et terrae,

天と地の造り主、

visibilium omnium,

すべての見えるもの、

et invisibilium.

また見えないもの(の造り主(である神を信じる))。

Et in unum Dominum Jesum Christum,

また私は信じる、唯一の主、イエス・キリストを。

Filium Dei unigenitum.

神のただ一人の御子、

Et ex Patre natum ante omnia saecula;

世のすべてより先に、父より生まれた方、

Deum de Deo,

神よりの神、

lumen de lumine,

光よりの光、

Deum verum de Deo vero.

真の神よりの真の神(である主イエスを信じる)。

Genitum, non factum,

生まれたのであり、造られたのではない、

Consubstantialem Patri:

父と一体である方、

per quem omnia facta sunt.

この方によって、すべてのものが造られた。

Qui propter nos homines

この方は私たち人類のため、

et propter nostram salutem

また私たちの救いのため、

descendit de coelis.

天からお降りになった。

Et incarnatus est de Spiritu Sancto

ex Maria Virgine:

そして聖霊によって、おとめマリアから肉体を受け、

Et homo factus est.

人におなりになった。

Crucifixus etiam pro nobis:

さらに私たちのために十字架にかけられ、

sub Pontio Pilato passus

ポンチオ・ピラトのもと、苦しみを受け、

et sepultus est.

葬られた。

Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.

そして聖書にあるように、3日目によみがえられ、

Et ascendit in coelum:

天へと昇られ、

sedet ad dexteram Patris.

父の右に(今)座られている。

Et iterum venturus est cum gloria

そして再び栄光に包まれつつおいでになり、

judicare vivos et mortuos:

生きている者と死者とを裁くであろう。

cujus regni non erit finis.

この方(主イエス)の御国の終わりはないであろう。

ブラームス「なにゆえ悩むものに光をたまわり」

ブラームス (Johannes Brahms 1833-1897) は19世紀ドイツ・ロマン派の代表的な作曲家ですが、とりわけ合唱のジャンルでは重要な役割を果たしました。

彼の初期のキャリアは、当時各地に新しく生まれていた市民合唱団の指導者というものでした。したがって、合唱曲を作曲する機会も多く、さらにシュッツやバッハら、いにしへの巨匠に対しても親近感を覚えつつ研究することができたと思われます。

また、「第1交響曲」(1876)よりも「ドイツ・レクイエム」(1868)の作曲が早かったという事実(ベートーヴェンの合唱の傑作が晩年に寄っているのと比較すると興味深い)も、彼の合唱への傾倒を示すものではないでしょうか。

「なにゆえ悩むものに光をたまわり」は、1877年に作曲され、バッハ研究者であった友人のフィリップ・シュピッタに捧げられました。バッハのスタイルを意識した無伴奏作品となっています。

この曲は大きく4つの部分に分かれます。

第1楽章＝神からの試練を「なぜ？」と問いつつ信仰を保つ義人ヨブ。これほど深刻で重苦しい音楽も珍しいのではないのでしょうか。

第2楽章＝一転明るく、6声の充実した響きの中で「哀歌」から信仰を確信した部分を歌います。

第3楽章＝新約聖書「ヤコブの手紙」から、至福と感謝にあふれた楽想が展開されます。6声のうち、ソプラノIが賛美歌のような旋律をゆったりと歌い(定旋律)、他の5声がこれを優しく飾っていきます。後半の音楽は第2楽章の繰り返し。

第4楽章＝ルターの詞・曲に和声付けされた短い4声コーラルで、バッハと見まがうほど。

さて、第2楽章と第3楽章の後半が同じ音楽なので、この曲は ABCBD の5部構成と考えることもできます。するとAが非常に長く、Dがとても短いことがわかります。現世の悩みは深く大きく長く、救済は一瞬に成し遂げられるという意味でしょうか。

Et in Spiritum Sanctum,

また私は信じる、聖霊を。

Dominum, et vivificantem:

主であり、命を吹き込む聖霊を。

qui ex Patre Filioque procedit.

聖霊は父子より現れ出て、

Qui cum Patre et Filio simul adoratur,

父と子と同様に崇められ、

et conglorificatur:

共に誉め讃えられ、

qui locutus est per Prophetas.

預言者達を通して(人々に)語ってきた。

Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.

また私は信じる、唯一の、聖なる、公の、使徒継承の教会を。

Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.

私は認める、罪咎の赦しとしての唯一の洗礼を。

Et exspecto resurrectionem mortuorum.

そして私は待ち望む、死者たちの復活と

Et vitam venturi saeculi. Amen.

来世での生命を。 アーメン。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

神の小羊(=イエス・キリスト)、世の罪咎を除きたまう方よ、

miserere nobis.

われらをあわれみたまえ。

(7声) **Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,**

神の小羊、世の罪咎を除きたまう方よ、

dona nobis pacem.

われらに平安を与えたまえ。

ブルックナー 「キリストは我らのために」「正しい者の口は」

〔歌詞はドイツ語〕

① Warum?

なぜ?

Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen,

なぜ労苦する者に光をたまわり、

und das Leben den betrübten Herzen? Warum?

悩み嘆く者を生かしておかれるのか? なぜ?

Die des Todes warten und kommt nicht,

彼らは死を待っているが、死は来ない。

und grüben ihn wohl aus dem Verborgenen;

死が地に埋もれているものなら喜んでそれを掘り出したであろうに。

die sich fast freuen und sind fröhlich,

喜び踊り、歓喜するであろうに…

daß sie das Grab bekommen. Warum?

…彼らが墓を得ることができれば。なぜ?

Und dem Manne, daß Weg verborgen ist,

行くべき道が隠されている者の前で、

und Gott vor ihm den selben bedeckt. Warum?

神はさらに道を覆われなされる。なぜ? (ヨブ記 3:20-23)

② Lasset uns unser Herz samt den Händen

心を、そして両手も一緒に

aufheben zu Gott im Himmel.

天にいます神に向かって高く上げよう。 (哀歌 3:41)

③ Siehe, wir preisen selig, die erduldet haben.

見よ、私たちは忍耐した人たちを祝福し、讃える。

Die Geduld Hiob habt ihr gehört,

あなたがたはヨブの忍耐について聞き、

und das Ende des Herrn habt ihr gesehen;

主が最後になされたことを知っている。

denn der Herr ist barmherzig und ein Erbarmer.

主は慈しみ深く、憐れみにみちた方であるから。 (ヤコブの手紙 5:11)

④ Mit Fried und Freud ich fahr dahin,

安らかに喜ばしく、私はこの世を旅立とう。

in Gottes Willen,

神のご意志によって。

getrost ist mir mein Herz und Sinn,

私の心と魂は慰められた、

sanft und stille.

穏やかに、静かに。

Wie Gott mir verheißen hat,

神が約束なされたように、

der Tod ist mir Schlaf worden.

死は私にとっては眠りとなった。 (マルティン・ルター)

ブルックナー (Anton Bruckner 1824-96) は、ブラームスと同じ 19 世紀ドイツ・ロマン派の中にあつて、交響曲と教会音楽の分野で多くの傑作を残しています。

今回演奏される無伴奏 (ア・カペラ) の宗教曲は小規模ながら深い内容を湛えたものとなっています。それは、おそらくは、彼の純朴な信仰心が核となっていると思うのですが、短い歌詞であっても、通りいっぺんの表現ではなく、それぞれの言葉にふさわしいメロディーの動きであつたり、音の高さであつたり、和声付けであつたり、いわば、言葉の手触りを確かめながら、味わいながら造形していく、そんなブルックナーの姿を想像させます。

Christus factus est キリストは我らのために

キリストの受難がテーマだけに、ブルックナーはあらゆる表現手段を駆使しています。頻繁な転調、半音進行、半音不協和、アクセント (>とともっと激しいハ) の多用、アルトに高い音を充ててソプラノに低い音を配置… 説明はともかく、この曲は演奏する者聴く者に迫ってきます。彼はイエスの苦しみと栄光に思いを馳せつつ、一音ごとに祈りながら、自分の身を切る思いで五線紙に音を刻んでいったのでしょう。

Os justi 正しい者の口は

詩編 37、30-31 による四部合唱ですが、時に四つのパートすべてがそれぞれ二つに分かれ計八声部の壮大な響きが現れます。この 70 小節ほどの曲、けっして短い曲ではなく、いろいろ手の込んでいる作りなのですが、楽譜を見ると # や b が 1 つもありません。つまり白鍵のドレミファソラシドだけで作られています。

これは、当時の「セシリア運動」という、教会音楽の改革運動 (中世からの斉唱によるグレゴリオ聖歌と先ほどのパレストリーナを理想とした運動) に呼応して書かれたものだからです。

〔歌詞はラテン語〕

Christus factus est pro nobis obediens

キリストはわたしたちのために己を低くされた。

usque ad mortem, mortem autem crucis.

それは死、しかも十字架の死にいたるものであつた。

Propter quod et Deus exaltavit illum

それゆえに神は彼を高め、

et dedit illi nomen,

彼に名を与えた。

quod est super omne nomen.

その名はあらゆる名の上に立つものである。

Os justi meditabitur sapientiam,

正しい者の口は知恵を思い、

et lingua ejus loquetur iudicium:

その舌は正義を語る。

lex Dei ejus in corde ipsius.

神の法はその者の心に (宿り)、

et non supplantabuntur gressus ejus. Alleluja.

その者の歩みがよろめくことはない。アレルヤ。

(詩編 37、30-31)

ペンデレツキ 「おお、栄光に満てる聖母」

文責 京都バツハ合唱団 飯島 直人



クシシトフ・ペンデレツキ (Krzysztof Penderecki 1933-) は、ポーランドの現代作曲家です。最初はヴァイオリンを学び、クラコフ大学で作曲を学びました。初期は、52人の弦楽オーケストラのために書かれた「ヒロシマの犠牲者への哀歌」に代表される、不協和音、トーンクラスターを駆使した急進的な作風で知られましたが、しだいに穏健な作風に転じており、最近「古典への回帰」という意味でも無伴奏の合唱曲に力を入れています。

「おお、栄光に満てる聖母」のテキストは、6世紀ごろの古い聖歌をもとに法王ウルバン8世が1632年に改作したマリヤの讃歌です。曲はペンデレツキの友人でもある指揮者、教育者のアブレウ (Jose Antonio Abreu) に献呈されました。アブレウはベネズエラの人で、ベネズエラの貧しい子供たちが犯罪に走らないように、音楽を教え、オーケストラを組織するという「エル・システム」というプログラムの創始者で、この運動から「シモン・ボリバル・ユース・オーケストラ」が誕生し、指揮者グスタヴォ・ドゥダメルのもとで国際的な活動を展開しています。2009年にペンデレツキがベネズエラに招かれた際、ペンデレツキはアブレウの70歳の誕生日を記念してこの曲を作曲し、自ら初演しました。無伴奏の女声だけで始まるシンプルな聖歌に男声合唱が交唱（アンティフォナル）風に答え、巧みな転調を交えながら、しだいに高揚してダイナミックな盛り上がりをかたち作ります。

O gloriosa Virginum,
Sublimis inter sidera,
Qui te creavit, parvulum
Lactente nutris ubere.

おお、栄光に満てる聖母よ、
星降る天上で戴冠され
あなたの作り主を
その清い乳で育てられたのだ

Quod Heva tristis abstulit,
Tu reddis almo germine:
Intrent ut astra flebiles,
Coeli recludis cardines.

不幸なイブは
聖なる胎を再び得て
地上の悲しみの民たちのために
天国の永遠の扉を開かれた

Tu regis alti janua,
Et aula lucis fulgida:
Vitam datam per Virginem,
Gentes redemptae plaudite.

燦然と輝く光の宮殿よ
天国の王の救いの門よ
永遠の命を救う聖母に
讃美の歌を歌え

Jesu, tibi sit gloria,
Qui natus es de Virgine,
Cum Patre, et almo Spiritu
In sempiterna saecula.

輝く乙女のもとに生まれたイエスよ
永遠の栄光があなたにありますように
神をたたえよ、そして
永遠の聖霊をたたえよ

第3ステージ

Hab' Sonne im Herzen

Cäsar Flaischlen

くちびるに歌を（原題：心に太陽を持って）

信長 貴富 歌詞構成・訳

〔歌詞は一部ドイツ語。作曲部分のみ抜粋〕

Hab' ein Lied auf den Lippen
mit fröhlichem Klang,
und macht auch des Alltags
Gedränge dich bang!
Hab' ein Lied auf den Lippen,
dann komme, was mag!
Das hilft dir verwinden
den einsamsten Tag!

くちびるにうたを持って
心に太陽を持って
ひとのためにも言葉を持って
そしてこう語りかけよう——
嵐が吹こうと
吹雪が来ようと
地上が争いで満たされようと
くちびるに歌を持って
心に太陽を持って
ひとのためにも言葉を持って

こころよ うたえ

一倉 宏 詞

心よ
だから心よ せめて歌え
あなたの複雑 あなたの空虚
あなたの震え あなたの繰り返しを
あまりに散文的な日々も あんまりなエピソードも
あたりまえのように 消えてしまうけど
ギターもハーモニカもなくても
引つ掻き傷のようなその声でいいから
ぼくは思いつき哀しく思いつき切なく
そして思いつき肯定的な歌を聴きたい
だから心よ あなたは歌え
いのち尽きるまで 歌え

「ことばになりたい」（毎日新聞社刊）より

「こころよ うたえ」の付曲されている部分のみ掲載しています。

リフレイン

覚 和歌子 詞

くりかえし 咲くつぼみ

くりかえし 実る枝

くりかえし つもる雪

くりかえし とける雪

来る年も 来る年も

そのたびに はじめまして

そのたびに なつかしい

くりかえし 寄せる波

くりかえし 返す波

くりかえす 雨の音

くりかえす 夕映え空

明るる日も 明るる日も

似てるけど 似てるだけ

どれだって ひとつきり

くりかえし うたう鳥

くりかえし まわる星

くりかえし 見つめ合い

くりかえし すきと言う

何度でも くりかえす

このときは たったいま

このいまは いちどだけ

『海のような大人になる』理論社 所収

※薄字の部分は作曲されていません。

群青

福島県南相馬市立小高中学校
平成24年度卒業生・構成 小田 美樹

ああ あの町で生まれて

君と出会い

たくさんの思い抱いて

一緒に時間^{とき}を過ごしたね

今 旅立つ日

見える景色は違っても

遠い場所で 君も同じ空

きっと見上げてるはず

「またね」と 手を振るけど

明日も会えるのかな

遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火

いつでも君がいたね

あたりまえが 幸せと知った

自転車をこいで 君と行った海

鮮やかな記憶が

目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が

僕らの中を過ぎて

3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声

響け 遠くまでも

あの空の彼方へも

大切な すべてに届け

涙のあとにも 見上げた夜空に

希望が光ってるよ

僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう

あの町で会おう

僕らの約束は

消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

ピッツェッティ「レクイエム」

1920年代のある日、イタリアの作曲家ピッツェッティ (Ildebrando Pizzetti 1880-1968) のもとに、レクイエム＝死者のためのミサ曲の作曲依頼が来ました。1900年に暗殺された先のイタリア国王、ウンベルト1世を記念するものでした。妻マリア・ストラディヴァリを20年の秋、思わぬ病気で亡くしたばかりのピッツェッティは、躊躇しながらも作曲を始めます。22年11月のことでした。

もともと宗教曲には興味が薄かった彼は、後日次のように述懐しています。「(私は) 人間の現存の意味や、来世の神秘を理解できない」「依頼がなければ、レクイエムを書いたかどうか、わからない」。それでも、「震えるほど際限のない量の歌詞に圧倒されながら書いたのだった…」。

この作品の大きな特徴は、オーケストラを付けず、ア・カペラ(無伴奏)で歌われるという点です。

レクイエムともなれば、当時はオーケストラ+ソリスト+合唱という大編成となるのが通例でした。まして先の国王のためのレクイエムです。大先輩ヴェルディの作品(1874)に匹敵するような規模が期待されたかもしれません。しかし反面、ヴェルディによって、従来型でやれることはやり尽くされた観もありました。また、パレストリーナの時代のマルチェルス2世と同じように、20世紀に入ってからも教皇ピウス10世が、オペラの色に染まった教会音楽に警告を発していました。

それにピッツェッティは、当時としては珍しく、中世に起源をもつグレゴリオ聖歌(ハーモニーがなく、一本のメロディーだけ、つまり斉唱で歌われる伝統的な教会音楽)やイタリアの古楽(第1ステージで歌われたパレストリーナなど)を学生時代に深く学んでいました。

これらの事情がからみあって、ルネサンス時代に栄えたものの、次のバロック期(およそ17世紀から)以降は衰退していたア・カペラによるレクイエムのスタイルが再び日の目を見るようになりました。

今日では、この作品がピッツェッティの代表作とされています。それはひとつには、いにしえのア・カペラの技法を土台にして、新しい表現方法を開拓していった点を評価したものでしょう。

もうひとつ、最初に述べたように、彼個人は、宗教曲(教会音楽)にどのように向き合っていくか、そこから自問しなければならぬ状況でした。「おそらく、私は絶望の念から、この曲を作曲した」。作曲家の根底にある一種の迷い・不安を、音楽そのものが見事に映し出しているところが、傑作たるゆえんかと思われまふ。

(歌詞はラテン語) S=ソプラノ A=アルト T=テナー B=バス

1 Requiem 永遠の安息を(五部合唱/ SATBB)

第2バスが重々しいメロディーで「死者たちに安らぎを」と祈り、曲が始まります。このメロディー、というより節回しはグレゴリオ聖歌風ではありますが、ピッツェッティのオリジナルです。その後すぐに五部合唱となり、さまざまに展開していきます。

Requiem aeternam dona eis, Domine;
永遠の安息を彼ら(死者たち)に与えたまえ、主よ。

et lux perpetua luceat eis.
絶えざる光で彼らを照らしたまえ。

Te decet hymnus Deus in Sion;
神よ、シオンでは賛歌がふさわしく歌われ、

et tibi reddetur votum in Jerusalem:
エルサレムでは誓いがあなたに果たされる。

exaudi orationem meam; わたしの祈りを聞きたまえ、
ad te omnis caro veniet.

全ての肉体は、あなたのもとに来るであろう。

Requiem aeternam dona eis, Domine;

永遠の安息を彼らに与えたまえ、主よ。

et lux perpetua luceat eis.

絶えざる光で彼らを照らしたまえ。

Kyrie eleison: 主よ、あわれみたまえ。

Christe eleison: キリストよ、あわれみたまえ。

Kyrie eleison: 主よ、あわれみたまえ。

2 Dies irae 怒りの日(八部合唱/ SSAATTBB)

歌詞が長い、曲も長く、また編成も大規模になります。最後の審判を前にした「わたし」が恐怖におびえ、哀願します。グレゴリオ聖歌の有名なメロディーがほぼそのまま使われていて、作曲家は伝統を尊重しています。一方で、典礼文にはない、言葉にならない声「oh」を合の手で入れているのは斬新で、劇的な緊張をぐっと高めることに成功しています。伝統的な素材を、独自にアレンジした創作料理の趣があります。

最後の部分は、第1曲冒頭の祈りの歌詞が戻ってきますが、どんな音楽が響くのかは聴いてのお楽しみです。

Dies irae, dies illa, Solvet saeculum in favilla:

怒りの日、その日は世界が灰燼に帰する日、

Teste David cum Sibylla.

ダビデ王、そしてシビラが証したように。

Quantus tremor est futurus, どれほどの戦慄があるのだろうか。

Quando judex est venturus, 裁き主がやってきて、

Cuncta stricte discussurus! すべてを厳しく裁こうとする時に。

Tuba mirum spargens sonum Per sepulcra regionum,

ラッパが不思議な音を響かせ、諸国の墓に鳴り渡り、

Coget omnes ante thronum. すべての者を玉座の前に集める。

Mors stupebit et natura, 死と自然は驚くであろう。

Cum resurget creatura, Judicanti responsura.

被造物(人々)が裁き主に答えるためによりみかえる時に。

Liber scriptus proferetur, 書き物が差し出され、

In quo totum continetur, Unde mundus judicetur.

すべてが書かれていて、それにより世界が裁かれる。

Judex ergo cum sedebit, Quidquid latet, apparebit:

裁き主が着座されるとき、隠し事はすべて明らかになる。

Nil inultum remanebit.

報われずに残るものは何もないであろう。

Quid sum miser tunc dicturus? 哀れなわたし、何を言おう?

Quem patronum rogaturus? 誰を弁護人に願えよう?

Cum vix justus sit securus. 正しい人でもほとんど心安らかに
なれないというのに。

Rex tremendae majestatis, 恐るべき威厳ある王、

Qui salvandos salvas gratis, 救われるべき者を恵みにより救う方、

Salva me, fons pietatis. わたしを救いたまえ、

慈しみの泉である方。

Recordare Jesu pie,

思い出したまえ、慈しみ深いイエスよ、

Quod sum causa tuae viae,

わたしのためにあなたがこの世に遣わされたことを。

Ne me perdas illa die. 審判の日、私を滅ぼすことなかれ。

Quaerens me, sedisti lassus,

わたしを尋ね求め、疲れてあなたは座られ、

Redemisti crucem passus,

十字架の苦しみでわたしの罪をあがなわれた。

Tantus labor non sit cassus.

これほどの労苦を無駄にすることなかれ。

Juste judex ultionis, 応報正しい裁き主よ、
Donum fac remissionis, 赦免を贈りたまえ、
Ante diem rationis. 罪を精算する日の前に。

Ingemisco, tamquam reus, Culpa rubet vultus meus,
わたしは嘆く、罪人のように。罪ゆえに頬が赤くなる。

Supplicanti parce Deus.
哀願するわたしを惜しみたまえ、神よ。

Qui Mariam absolvisti, Et latronem exaudisti,
マグダラのマリアを赦し、賊の願いを聞き容れ、

Mihi quoque spem dedisti.
わたしにも希望を与えられた方よ、

Preces meae non sunt dignae:
わたしの願いは分不相応ですが、

Sed tu bonus fac benigne,
善きあなたよ、厚意をなしたまえ、

Ne perenni cremer igne.
わたしが劫火に焼かれることなかれ。

Inter oves locum praesta, 羊たち(善)の間にわたしの場を与え、
Et ab haedis me sequestra, 山羊(悪)から離れたまえ、
Statuens in parte dextra. 右側に立たせたまえ。

Confutatis maledictis, Flammis acerbis addictis:
呪われた者は黙らされ、烈しい炎に渡される。

Voca me cum benedictis.
わたしを祝福された者たちと一緒に呼びたまえ。

Oro supplex et acclinis,
哀願し、伏してわたしは祈り、

Cor contritum quasi cinis:
心は灰のごとくすり切れている。

Gere curam mei finis.
わたしの最後の悩みを心に留めたまえ。

Lacrimosa dies illa, Qua resurget ex favilla
涙あふれる日、その日に灰から再び立ち上がるのは、

Judicandus homo reus:
罪ある者として裁かれる者。

Huic ergo parce Deus...
このわたしを惜しみたまえ、神よ…

Pie Jesu Domine, Dona eis requiem.
慈しみ深い主イエスよ、彼らに安息を与えたまえ。

Amen
アーメン。

3 Sanctus 聖なるかな

(三群の四部合唱 / SSAA + TTBB + TTBB)

神への賛美があふれんばかりの響きで歌われます。この響きは、合唱団が3倍になったことで生まれたものです。こうした技法(複合唱)は、パレストリーナがローマで活躍していたころ、ヴェネチアで発達しました。ここでもピッツェッティは、いにしへの技を活かしています。

Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。

Pleni sunt coeli et terra gloria tua.
主の栄光は、天と地とに満ちている。

Hosanna in excelsis.
いと高きところに、オザンナ!

Benedictus qui venit in nomine Domini.
祝福あれ、主の御名によって来られる方に。

Hosanna in excelsis.
いと高きところに、オザンナ!

4 Agnus Dei 神の小羊 (四部合唱 / SATB)

1曲目や2曲目の最後に続き、安らぎをもとめる祈りが唱えられます。大規模な編成の曲が続いた後だけに、ここでは基本的な四部合唱の柔らかで落ち着いた印象がいつそう引き立ちます。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
神の小羊 (=イエス・キリスト)、世の罪咎を除きたまう方よ、
dona eis requiem.
彼らに安息を与えたまえ。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
神の小羊、世の罪咎を除きたまう方よ、
dona eis requiem sempiternam.
彼らに永遠の安息を与えたまえ。

5 Libera me 主よ、解き放してください (五部合唱 / SATBB)

2曲目と同様、最後の審判に向かう「わたし」を描いています。「レとラ」だけ(ファがない)、とか「ラとミ」だけ(ドがない)など、和音の真ん中の音を抜いた響き(中世的といってもいいでしょう)があちこちで使われ、独特な雰囲気醸し出しながら、全曲が閉じられます。

Libera me, Domine, de morte aeterna,
主よ、わたしを永遠の死から解き放してください、
in die illa tremenda:
あの恐るべき日には。

Quando coeli movendi sunt et terra,
天地が揺り動かされ、
dum veneris judicare saeculum per ignem.
主がお出ましになり、火で世を裁かれるその日には。

Tremens factus sum ego, et timeo,
わたしは怯え、恐れおののきます、
dum discussio venerit, atque ventura ira.
裁きが、さらに来るべき怒りが、やって来るとなれば。

Quando coeli movendi sunt et terra,
天地が揺り動かされる、その日…

Dies illa, dies irae, calamitatis et miseriae,
その日こそ、怒り、災い、苦難の日、
dies magna et amara valde.
重大な、そして実に辛い日。

Dum veneris judicare saeculum per ignem.
主がお出ましになり、火で世を裁かれるその日。

Requiem aeternam dona eis, Domine;
主よ、永遠の安息を彼らに与えたまえ。

Et lux perpetua luceat eis.
そして絶えざる光が彼らに光りますように。

Libera me, Domine, de morte aeterna,
主よ、わたしを永遠の死から解き放してください、
in die illa tremenda:
あの恐るべき日には。

Quando coeli movendi sunt et terra,
天地が揺り動かされ、
dum veneris judicare saeculum per ignem.
主がお出ましになり、火で世を裁かれるその日には、
わたしを解き放してください。



常任指揮者 宍戸 真市

Shinichi SHISHIDO

福島県福島市出身。1999年、国立音楽大学音楽教育学科音楽教育専修を首席で卒業。岡本賞受賞。ピアノを内海咲子、小林美樹、岡田隆郎、声楽を伊藤勲、砂川稔、渡辺多津彦、指揮を今村能、小塚類の各氏に師事。

2006年、湯本高等学校に赴任。4年間、同校合唱部の指導にあたる。

2007年、福島県合唱連盟60周年記念青少年合唱団のバスパートリーダーを歴任。プラハ・ウィーン（アルテンブルク、シェーンブルン宮殿礼拝堂）・ザルツブルクの各コンサート、ミサでバスソロを担当した。

2010年、安積黎明高等学校に赴任。同校合唱団を指揮し、全日本合唱コンクール全国大会で5年連続金賞（2011年 文部科学大臣奨励賞）受賞、NHK 全国学校音楽コンクールで金賞・内閣総理大臣賞・文部科学大臣奨励賞を1回受賞した。また、同校クラシック部（弦楽合奏）を指揮し、全国学校合奏コンクール全国大会で奨励賞を受賞している。さらに、安積合唱協会を指揮し、第65回全日本合唱コンクールで銅賞を受賞している。

現在、福島県合唱連盟事務局次長、福島県友協会合唱団事務局長、安積合唱協会常任指揮者。



ヴォイストレーナー 紅林 美枝

Mie KUREBAYASHI

山形大学大学院教科教育専攻音楽教育専修声楽分野修了。二期会オペラスタジオ 第45期マスタークラス修了。1995年山形ジュニア音楽コンクール金賞グランプリ受賞。1996年日本クラシック音楽コンクール奨励賞受賞。2001年ソレイユ音楽新人オーディション合格。2003年ウィーン秋期特別アカデミー修了。

「山形交響楽団ニューイヤーコンサート」「二期会新進声楽家のタベ」「ベーゼンドルファーザール（ウィーン）コンサート」「楽都郡山こころに響くハーモニー事業“四季の風コンサート”」等に出演。またコールOMG（秋田県大館市）、安積黎明高等学校合唱団、安積合唱協会等、数々の団体の演奏会等にアルトソリストとして出演している。

声楽を渡部昭子、藤野祐一、藤野恵美子、野村陽子、オルガ・ワルラ・コロの各氏に、ピアノを長谷川牧子、小野崎通男の各氏に師事。

現在、郡山市内にて音楽教室を主宰。安積合唱協会ヴォイストレーナー、郡山女子大学附属高等学校音楽科非常勤講師、二期会会員。



ピアニスト 橋本 絵美

Emi HASHIMOTO

福島県郡山市出身。国立音楽大学付属音楽高等学校、および同大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピティナヤングピアニストコンペティションD級銅賞、同デュオ部門特級全国決勝大会入選。大学卒業後、ドイツのドレスデンにて研鑽を積み、現在は福島県内で後進のピアノ指導にあたっている。

これまでにピアノを加藤智子、進藤桃子、山本万里子、デッドレフ・カイザーの各氏に師事。ソロ、合唱伴奏・アンサンブルにも積極的に参加。

橋本ピアノ教室（<http://www.mio-piacere.com/>）、会津大学短期大学部非常勤講師。



客演指揮者 本山 秀毅

Hideki MOTOYAMA

京都市立芸術大学音楽部卒業。フランクフルト音楽大学合唱指揮科卒業。帰国後はバッハを主とする教会音楽を中心に演奏活動を続ける。「バッハアカデミー関西」を設立し、「教会暦によるカンタータシリーズ」によりバッハの声楽作品の全曲に取り組んでいる。1995年にはオレゴン・バッハフェスティバルに、また2002年5月にはライブツィッヒ・バッハフェスティバルに招聘され、バッハのミサ曲などを演奏し好評を博した。また、一般、大学合唱団の客演指揮者、合唱指導法などの講習会の講師、全日本合唱コンクールをはじめとするコンクールの審査員として合唱音楽の普及にも努めている。同時に関西におけるプロ合唱団とオペラ作品の合唱指揮にも活躍している。

第15回藤堂音楽褒章、2001年度京都市芸術新人賞受賞。指揮をヘルムート・リリンク、ヴォルフガング・シェーファー、ウベ・グロノスタイの各氏に師事。現在、大阪音楽大学教授。びわ湖ホール声楽アンサンブル、大阪センチュリー合唱団専任指揮者。京都バッハ合唱団主宰。

1992年、中世・ルネサンス、バロック時代の合唱曲を演奏することを目的に、同好の士を募り設立された一般の混声合唱団である。団員構成も、主に福島県にゆかりのある公務員・会社員・学生などと多岐にわたっている。設立以来、これまでに、多数の定期演奏会、特別公演等を開催。1993年にはウィーン、オーバーバルト、ザルツブルク、ミュンヘンにて公演、1999年にはフランス・マルセイユにおいてガブリエル・フォーレ合唱団と日仏親善ジョイント・コンサート、2004年にはオーストリア・フォラウ修道院にて演奏会を開催した。節目の記念定期演奏会では、2006年15周年にモーツァルト「レクイエム」、2013年20周年にフォーレ「レクイエム」を演奏し好評を博した。

2011年2月からは、宍戸真市氏を常任指揮者として、月1～2回程度の定期練習を基本とし、古楽の魅力である「優れた音律（チューニング）」と「各声部の完璧な調律（ブレンド）」を目指し活動している。全日本合唱コンクールをはじめとするコンクールや各種演奏会にも積極的に参加しており、2012年には、全日本合唱コンクール全国大会に出場し、銅賞を受賞した。また2013年より、震災からの復興を祈念し京都府長岡京市で開催されたHarmony for JAPANに参加し、福島から歌声を届けるとともに関西の合唱団との交流活動も積極的に行っている。



京都バッハ合唱団

1988年、本山秀毅の主宰により「京都バッハアンサンブル」として創設され、1990年に「京都バッハ合唱団」と改称。解説を伴った演奏会形式「ゲシュプレヘスコンツェルト」により、バッハを中心とする教会音楽の多角的な演奏活動を展開している。「バッハアカデミー関西」の構成団体として2000年より開始した『教会暦によるカンタータシリーズ』は現在も継続中でその活動の中核をなしている。

1995年、戦後50年を記念するオレゴン・バッハフェスティバルへ招聘され、ドイツ、アメリカの演奏家とともにブリテン『戦争レクイエム』を演奏したのをはじめ、3度にわたるヨーロッパ演奏旅行の中でも、2002年にはライプツィヒ・バッハフェスティバルに招聘され、聖トーマス教会にてバッハのミサ曲を演奏したことは特筆に値する。2009年には「ラ・フォル・ジュルネ金沢2009」に招聘されオーケストラアンサンブル金沢と共演。2011年にはザクセン声楽アンサンブルとのジョイント演奏会に参加。また2011年、2013年の2度にわたり博多のバッハ・ストリングアンサンブルとのジョイント演奏会を行うなど内外の演奏家との交流も活発に行っている。

1991年、1998年には、同志社栄光館において、ライプツィヒ聖トーマス教会のペッツォールト教授の協力を得て「バッハ時代の歴史的礼拝の復元」に取り組んだのをはじめ、2006年には国立民族学博物館の研究公演「いま、よみがえる南米のバロック音楽」にてスペイン支配下のボリビアのバロック音楽の復元演奏に参加するなどのユニークかつアカデミックな活動を展開している。

2000年10月に行われた特別演奏会「マタイ受難曲」により大阪府文化祭奨励賞受賞。



役 員

理 事 長	曳地 利光	ソプラノパートリーダー	古山 香織
副 理 事 長	浦部 真平	アルトパートリーダー	塚本 朋子
指 揮	古山 香織	テノールパートリーダー	渡邊 佳文
//	塚本 朋子	バスパートリーダー	浦部 真平
//	佐藤 優子	ソプラノパートマネージャー	持田 円
総務担当理事	志賀 一郎	アルトパートマネージャー	樫村 貴久子
人事担当理事	乙高 宣子	テノールパートマネージャー	山内 幸彦
経理担当理事	斎藤 由紀夫	バスパートマネージャー	武藤 克則
企画担当理事	鈴木 幸恵		
監 事	浦部 智子		
事 務 局 長	金成 聡司		

安積合唱協会
メンバー

ソプラノ	古山 香織 柳沼 文音	乙高 宣子 三瓶 葵	佐藤 優子 持田 円	浦部 智子 穴戸みゆき	加藤 順子 鈴木 志帆	数馬 雅子
アルト	塚本 朋子 千葉由佳子	樫村貴久子 神成 楓香	矢野 夏子 増子 菜月	鈴木 幸恵 塩井和歌子	山本 清子	船引 彩子
テノール	渡邊 佳文 斎藤由紀夫	金成 聡司 仁井 敏昭	和田 裕 會田 喜樹	曳地 利光 渡辺 慎弥	山内 幸彦 酒井 道宏	古川 隼斗 渡邊 勉
バス	浦部 真平 桑原 一夫	六角 弘通 乙高 広幸	武藤 克則 佐々木 守	渡辺 均 仲川 和哉	志賀 一郎 狩野 宙也	影山 洋一

京都バッハ
合唱団
メンバー

ソプラノ	飯島 昭子 下村 陽子	池邊 裕子 高井 小織	伊藤 美紀 角村佳代子	小坂田有美 乃村八千代	川勝 亜希 三浦 史子	樹山 敦子
アルト	木田 直美	久世 昌子	中村 友美	野口ひろみ	広庭さつき	山添 元子
テノール	飯島 直人	坂本 正弘	田中 悠貴	前田 裕貴	松川 泰廣	
バス	今井 克之	清水 章光	下村 知生	三浦 広平	山本 敏雄	

解説
・
対訳

酒井 道宏

高校在学中、高麗正宣氏より音楽世界に導かれる。その後、音楽の理論面（音楽史、美学芸術学、表象文化論）を戸口幸策、皆川達夫、海老澤敏ほか諸氏に、実践面（声楽、解釈法、指揮法）を宮下正、前田幸市郎、大谷研二ほか諸氏に師事。さまざまな合唱団からの依頼を受けて歌詞対訳や解説を手がけるなど、合唱音楽の理論と実践を掘り下げて融合させることをライフワークとして活動中。

安積合唱協会のあゆみ

1992(平成 4)年	5月	設立総会
1993(平成 5)年	3月	第1回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
	12月	第2回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
1995(平成 7)年 ~2000(平成12)年		第1回 海外公演(ウィーン、ザルツブルク、ミュンヘン)
	3月	第3回~第8回定期演奏会(郡山市内)
	1月	第2回 海外公演(マルセイユ、ラシオタ、アヴィニョン)
1999(平成11)年		福島県合唱コンクール及び
1999(平成11)年 ~2000(平成12)年		全日本合唱コンクール東北支部大会出場(銀賞受賞)
2000(平成12)年	3月	特別公演(会津若松市・会津アピオ内(株)共立土建コンサートホール)
2001(平成13)年	3月	第9回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	9月	第55回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 金賞
		第54回 全日本合唱コンクール東北支部大会(盛岡市民文化ホール大ホール) 金賞
	12月	第10回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
2002(平成14)年	9月	第56回 福島県合唱コンクール(矢吹町文化センター大ホール) 金賞
		第55回 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 銀賞
2003(平成15)年	1月	第11回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第57回 福島県合唱コンクール(いわき市市民会館大ホール) 金賞 高野賞
	9月	第56回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銅賞

2004(平成16)年	1月	第12回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第58回 福島県合唱コンクール(原町市民文化会館大ホール) 金賞
	9月	第57回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
	11月	やまぐち県民文化祭アカペラフェスティバル招待演奏(秋吉台国際芸術村ホール) 海外公演記念演奏会(福島市音楽堂大ホール)
	12月	第13回 定期演奏会(郡山カトリック教会) 第3回 海外公演(アイゼンシュタット、フォラウ)
2005(平成17)年	3月	法政大学アカデミー合唱団福島公演賛助出演(福島市音楽堂大ホール)
	8月	第59回 福島県合唱コンクール(喜多方プラザせせらぎホール) 金賞 三浦賞 福島県教育長賞
	9月	第58回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 銀賞
	12月	第14回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2006(平成18)年	9月	第60回 福島県合唱コンクール(福島県文化センター大ホール) 金賞
	10月	第59回 全日本合唱コンクール東北支部大会(名取市文化会館大ホール) 銀賞
	12月	第15回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2007(平成19)年	9月	第61回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞 平成19年度 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 金賞
	12月	第16回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール) 第24回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
2008(平成20)年	3月	第1回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	郡山市民合唱団定期演奏会賛助出演(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第62回 福島県合唱コンクール(南相馬市文化会館大ホール) 金賞
	9月	第60回 全日本合唱コンクール東北支部大会(岩手県民会館大ホール) 金賞
	12月	平FG合唱団定期演奏会賛助出演(いわき芸術文化交流館アリオス音楽小ホール) 第25回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
2009(平成21)年	3月	第2回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	第17回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第63回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 銀賞
	9月	第61回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銀賞
2010(平成22)年	12月	第26回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
	6月	第18回 定期演奏会(郡山市民合唱団賛助出演)(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第64回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	9月	第62回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
2011(平成23)年	12月	第27回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	7月	第27回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) 総合3位(ルネサンス・バロック部門金賞)
	8月	第65回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂大ホール) 金賞
	9月	第63回 全日本合唱コンクール東北支部大会(岩手県民会館大ホール) 金賞
2012(平成24)年	12月	第28回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	2月	第19回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
	3月	希望の歌声合唱フェスティバル2012(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 第5回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 優良賞
	7月	第28回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞、 ロマン派部門銅賞
	9月	第66回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
	9月	第64回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
	11月	第65回 全日本合唱コンクール全国大会(富山市芸術文化ホール オーバードホール) 銅賞
	12月	第29回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	2月	第20回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2013(平成25)年	3月	Harmony for JAPAN 2013(京都府長岡京市文化会館) 第6回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 優良賞
	7月	第29回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞
	9月	第67回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 銀賞
	9月	第65回 全日本合唱コンクール東北支部大会(宮城県仙台市イズミティ21) 金賞
	11月	第3回 ハーモニーコンサート(郡山市民文化センター大ホール)
	12月	第30回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銅賞
	3月	Harmony for JAPAN 2014(京都府長岡京市文化会館)
2014(平成26)年	4月	第21回定期演奏会 振替公演(郡山中央図書館 視聴覚ホール)
	7月	第30回宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞
	8月	第68回福島県合唱コンクール(會津風雅堂) 金賞
	9月	第66回全日本合唱コンクール 東北支部大会(リンクステーション青森) 金賞
	12月	第31回福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 
	12月	第5回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター大ホール)
	12月	第5回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター大ホール)

**賛助会員
個人**
(50音順・敬称略)

金澤 博子	1口	曳地 利男	4口
桑原 唯・亜依	1口	三浦 孝仁	1口
佐藤 寿子	4口	武藤 由美子	1口
佐藤 禮子	1口	山内 克彦	1口
鈴木 哲史	2口	渡辺 正恵	2口
鈴木 哲弥	1口	渡部 芳雄	1口
仁瓶 富子	1口	渡部 京子	1口

**賛助会員
団体**
(敬称略)

株式会社コーケン	20口
株式会社CMI	10口
メディカルエキスパート株式会社	4口

■ 事業内容



設備	清掃	建築	警備
◎電気・空調・給排水・消防 ◎情報通信・搬送・工事診断	◎日常メンテナンス ◎定期メンテナンス ◎特別メンテナンス	◎新築工事 ◎リフォーム&リニューアル ◎建物調査診断 ◎建築資機材の販売 ◎不動産事業	◎施設警備 ◎交通誘導雑踏警備 ◎機械警備・巡回警備 ◎保安警備
サービス	マンション管理	ホテル・旅館	駐車場
◎インフォメーション ◎スポーツ施設管理	◎基幹事務管理 ◎管理員業務 ◎維持管理業務	◎客室整備・パブリック ◎フロント業務	◎駐車場管理 ◎駐車場運営
環境衛生	資産運営管理	太平遠隔管理システム	その他
◎ビル衛生管理 ◎病院衛生管理 ◎廃棄物処理	◎プロパティマネジメント ◎ビルマネジメント ◎ビルコンサルティング サービス	◎TaRMS	◎人材派遣 ◎医療補助業務 ◎造園及び植栽



全国どこでも 太平ビルサービスへ
いつでもお気軽にお電話ください。

▶全国営業網

太平ビルサービス株式会社
郡山支店

〒963-8014 福島県郡山市虎丸町21-10 EME郡山ビル2F

電話番号 024-933-0728 FAX番号 024-933-5754

ホームページ <http://www.taihei-bs.co.jp/>


～心ふれあう地域医療をめざして～



医療法人社団 恵周会
白河病院
理事長・病院長 本田恒雄
救急病院 白河市六反山 10-1 ☎0248-23-2700

【外来診療科目】

● 循環器内科	● 整形外科
● 脳神経外科	● 消化器科
● 心臓血管外科	● 人工透析
● 麻酔科	● 人間・脳ドック
● 胃腸内科	● 各種検診



Hiroshi Kazuma
Internal Medicine and Cardiology Clinic

かずま医院
内科/循環器科/呼吸器科/外科

医学博士 数馬 博
〒963-8862 郡山市業根一丁目15-2 Tel.024-934-7750

【診療時間】

		月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
午後	3:00~7:00	●	●	午後 休診	●	●	●

休診日/日曜・祝祭日、水曜午後

日進堂印刷所
(手配中)



ハーモニーのあるデザインを皆様へ

Shinwa Creative Center
ふれあいの心をそだてる
株式会社 進和クリエイティブセンター

企画プランニング、デザイン、コピーライティング、編集、取材執筆、撮影、イラストレーション、外国語翻訳、テープ起こしリライ、各種広告物、POP、出版・刊行物の企画・編集・制作、各種映像ソフトの企画・制作、CI計画

〒960-2194 福島市庄野字柿場1-1 TEL (024) 594-2145 FAX (024) 594-2147
URL <http://www.nisshindo.co.jp/cc/>

azbil
人を中心としたオートメーション

建物から社会へ、地球環境へ

アズビル株式会社
ビルシステムカンパニー 福島営業所 024-935-7860

〒963-8014 福島県郡山市虎丸町 2-11 郡山虎丸町第一生命ビル
<http://www.azbil.com/jp/>
株式会社から社名を変更いたしました。

福島の今を届け
そして未来へ——



福島民報社
本社/福島市太田町13-17 ☎(024)531-4111(代)
URL <http://www.minpo.jp/>



院長 大野 広衛

〒963-8844 福島県郡山市字賀庄 54-1
TEL 024-937-3775 FAX 024-937-3776
e-mail koei@safins.ne.jp

KOSEKI 地域とともに
笑顔のために

【業務内容】

- ▶ 医用画像・院内ネットワークの構築・医用機器販売・施工・メンテナンス
- ▶ 映像・音響システムの構築・設計・施工・メンテナンス
- ▶ 学会・各種イベントの運営サポート、映像音響機材のレンタル
- ▶ 「カメラのコセキ」などの店舗運営

コセキ株式会社 「印刷」と「再生」で人々の喜びに貢献する

郡山営業所：福島県郡山市東2丁目43番22号 〒963-8034 TEL 024-3973-0773
福島営業所：福島県福島市南田中街約71番1号 〒960-8204 TEL 024-5343-2188

本社：宮城県仙台市青葉区瑞穂町2番26号 〒981-0918 TEL 022-2222-2221
営業所：青森・盛岡・仙台 / 出張所：八戸・いわき
店舗：フォトショップ・印刷店・カラープリンタースターション・インキュベーター

詳しくは、www.koseki.co.jp

日本医療機能評価機構認定病院 地域がん診療連携拠点病院指定



一般財団法人慈山会医学研究所付属

坪井病院

TEL.024-946-0808



福島県郡山市安積町長久保一丁目10番地13 <http://www.tsuboi-hp.or.jp>

診療科目

内科 外科 消化器内科 消化器外科 大腸・肛門外科 呼吸器内科 呼吸器外科
乳腺外科 婦人科 放射線科 麻酔科 病理診断科 緩和ケア内科

人間ドック 各種検診 ホスピス 在宅ホスピス がん相談 禁煙指導

訪問看護ステーション

ケアステーションあすなろ

福島県郡山市駅前一丁目12番3号
TEL.024-923-5121



JA 福島厚生連

白河厚生総合病院

～ PET-CT がん検診を実施しております～

院長 前原 和平

白河市豊地上弥次郎2-1 TEL (0248) 22-2211 FAX (0248) 22-2218

診療科名

第一内科、第二内科、第三内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、心療内科、外科、呼吸器外科、
心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、内視鏡外科、精神科、小児科、皮膚科、
泌尿器科（人工透析）、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科

日曜日、祝日、第1・3土曜日、8月16日、12月30日～1月3日は休診となります。

- 居宅介護支援事業所
- しらかわ訪問看護ステーション
- 付属高等看護学院
- 農村検診センター

JA 福島厚生連 塙厚生病院

院長 佐川 恵一

〒963-5493 福島県東白川郡塙町大字塙字大町1丁目5 TEL (0247)43-1145 FAX (0247)43-3394
<https://www.hanawa-fkousei.jp/>

はなわ訪問介護ステーション	TEL (0247)43-0073	FAX (0247)43-3394
塙厚生病院居宅介護支援事業所	TEL (0247)43-1105	FAX (0247)43-1394
介護老人保健施設「久慈の郷」	TEL (0247)43-1101	FAX (0247)43-2520

歌
い
ま
せ
ん
か
!!

**安積合唱協会
会員募集のご案内**

私たちは、中世・ルネッサンス、バロック時代を中心とした知られざる名曲を発掘し、美しく甘い教会音楽の響きを味わい、純度の高い緻密で精確な歌唱技法と、魅力に溢れた、厳格で明快なフレーズを求めようと県内外各地から集い、懇親を深め、合唱活動を行う「一般の合唱団」です。

古楽の魅力と美しさ…

優れた音律(チューニング)と、各声部の完璧な調整(ブレンド)を、私たちと一緒に追い求めてみませんか?
 合唱を愛する方、どうぞお気軽に見学にお越しください。



私
た
ち
と
共
に

第30回宝塚国際室内合唱コンクール ルネッサンス・バロック部門 銀賞(平成26年7月)
 第66回全日本合唱コンクール東北支部大会 金賞(平成26年9月)

- 主な演奏活動／定期演奏会、合唱コンクール、海外公演、特別公演等
- 練習日程／月に1回程度(日曜日)9:30~17:00
- 練習場所／郡山市内公民館等

詳細や、入会・見学のお問い合わせは下記事務局までどうぞ!

●お問い合わせ **安積合唱協会事務局** TEL **090-3640-4322** (金成)
 E-mail asaka-1992@kpe.biglobe.ne.jp URL <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~asaka/>

<http://kyotobachchor.asablo.jp/>

Kyoto Bach Chor

ASAKA Chorverein

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~asaka/>

<https://www.facebook.com/AsakaChorverein/>

<https://twitter.com/AsakaChorverein/>